一般財団法人市川市福祉公社

令和４年度　第２回　介護・医療連携推進会議　議事録

1.　日　時：　令和５年２月 21 日（火）　　14 時 00 分～15 時 00 分
2.　場　所：　大洲防災公園　ふれあいセンター2 階　第 1～2 会議室
3.　出席者　　26 名

〔委　員〕

議長　髙久　悟
委員　竹内　美知
　　四ツ屋　真由美
　　村尾　薫

以上　委員　４名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課	２名
高齢者サポートセンター市川第二	１名
高齢者サポートセンター市川東部	１名
高齢者サポートセンター菅野・須和田	１名
高齢者サポートセンター真間	１名
高齢者サポートセンター信篤二俣	１名
高齢者サポートセンター国府台	３名（内、学生２名）
高齢者サポートセンター国分	３名（内、実習生２名）
高齢者サポートセンター八幡	１名
居宅介護支援事業所	１名
定期巡回事業所	２名
大学教授	１名

以上　オブザーバー　18 名

〔事務局〕

事業一課　課長　水野　庸子
当該事業管理者・計画作成責任者　　藤田　健治
ヘルパーステーション（巡回）　主任　澤村　泉
ヘルパーステーション（巡回）　係長　豊崎　邦幸

以上　事務局　　４名

■　開　会

（1）事務局より資料の説明を行う
　・令和４年度　第２回　介護・医療連携推進会議資料
　・利用者一覧
　・自己評価・外部評価

(3) 事業一課　課長より挨拶
(4) 委員、オブザーバー紹介
(5) 事務局紹介

●サービス提供等状況報告・相談受付状況について
＜事務局　藤田→豊崎＞
・レジュメに沿い令和４年７月～12 月のサービス提供等状況、相談状況を報告した。
＜村尾委員＞
・相談導入の部分でのガン末期のケースについて受け入れから終了の部分まで、利用者一覧を拝見すると、短期で終了する方もいれば長期的な方もいるという混在している状況が窺えるが、そのあたりはどうか。
＜事務局　豊崎＞
・ターミナルケースは比較的多い。長期的に渡るケースと短期で終了するケースが混在していることを認識している。
＜村尾委員＞
・ケアマネージャーも定期巡回にマッチするケースを検討していると思うが、24 時間在宅ケア研究会という所から出されている「定期巡回随時対応サービスのポイント」という PDF が１月下旬に市川市担当課から各居宅の方にメールで送信されている。このサービスと利用者とのマッチングのためにもこういったものを活用しながら PR していけると良いと思う。
＜四ツ屋委員＞
・定期訪問でニーズを満たす事ができていることで随時の回数が比較的抑えられていると考えられ良い方向だと思う。
・ターミナルケースを受け入れていくことも良い方向だと思う。
＜竹内委員＞
・相談のみのケース３件の照会があったが残り５件はどういった内容か。
＜事務局　豊崎＞
・5 件の内訳は食事提供、服薬確認、入浴介助という相談内容。時間帯やケア内容について条件がマッチングしなかった事例となる。
＜髙久議長＞
・利用者数が持ち直してきている。コロナの影響について関係はあるか。潜在ニーズはあるか。
＜事務局　藤田＞
・コロナの影響について全く無い訳ではないが、相談を取りこぼす事無く、出来得る限りニーズに応じている結果と考える。この事業の潜在ニーズはあると考える。

●自己評価・外部評価
＜事務局　藤田＞
・レジュメに沿い報告した。
＜村尾委員＞
・「できている」が多く頑張っている。

・インフォーマルサービスの部分では、地域の情報等、ネットで発信している例もあるので上手に活用できればと思う。
＜四ツ屋委員＞
・引き続き頑張って頂きたい。
＜竹内委員＞
・コロナ禍でやり難かった部分があったという事だが、今後５類相当に変更されることでやりやすくなる項目も出てくるかと思う。その際は積極的に取り組んで頂けると良いかと思う。コロナ禍、オンラインで済ます事が出来る部分もあったかと思うが、そういったメリットは活かしつつ取り組んで頂きたい。
＜髙久議長＞
・できていないという箇所は、努力しているけれど、できていないという印象がある。引き続き頑張って欲しい。

●事例報告
＜事務局　澤村＞
・レジュメに沿い報告した。
＜髙久議長＞
・具体的に良くなっている事が見える事例。
＜村尾委員＞
・複数のサービスが入った事例。情報の共有、ケア方法の統一についても状況に応じて変化があると思うが上手に対応されていると思う。別の課題も出てくると思うが、本人の思いが出てくることはとても大切な事だと思うので、リスクも踏まえながらサポートできる部分を頑張ってもらいたい。
＜四ツ屋委員＞
・定期巡回の効果が出ていてアピールできる事例だと思う。
＜竹内委員＞
・非常に短期間で効果が出ている事例。注射を冷蔵庫から出すなど、訪問看護と非常に良い連携だと思う。
＜髙久議長＞
・評価の高いご意見が多い。
＜居宅介護支援事業所ケアマネージャー＞
・日々回復傾向にあり、それだけに心配な部分も多い。認知症の方でありリスクへの理解がなかなか得られないが、自分のやりたい事をやりたいという意思がしっかりとしているのでそのことは大切にしたい。情報共有も出来ておりしっかりと対応出来ていると思う。
＜髙久議長＞
・定期巡回と夜間対応型の利用者が重複しているという情報を得ている。今後、定期巡回にまとめていく方向性も示唆されている。市の福祉計画によれば定期巡回の事業所を一ヶ所増やすということだが、今後、定期巡回を増やしていく方向性ではあるのか。潜在的な需要はあるとの事なので、今後も一定数の利用者数の増加はあると思う。事業計画整備の面と事業の統廃合を見越した中での展開があれば教えて頂きたい。
＜福祉政策課＞
・第８期高齢者福祉計画令和４年度では当該事業を１か所整備の計画を立てている。今後

の方向性については、来年度に介護報酬等の改訂が予定されているが、そこでの国の検討状況については、その方向性を把握しながら対応していく。

＜髙久議長＞

・訪問介護事業所の中には、送迎や看取りなど、訪問介護のプラン以外のサービスも受け入れているという事例もあると紹介されていた。そういったことも定期巡回のようなサービスの中で求められてくるのかなとその情報を見て考えたが、そういったことについてはどの様に考えているか。

＜福祉政策課＞

・通所介護だけでは補いきれない部分の充足の必要性についても補完するご意見ではないかと受け止めたい。そういった事についての方向性も把握していくことに努めたい。

●その他

＜事務局　水野＞

福祉政策課へ以下 2 点について回答を依頼した。

①当該事業に関する市川市の公募状況

②当該事業に関する市川市の PR 活動状況

＜福祉政策課＞

①現時点での具体的な公募状況については改めて確認の上、後日回答としたい。

→同日、福祉政策課より事務局水野宛てに電話連絡あり「公募状況はゼロ。柏井町、南大野にサービスが行き届いていないことも充分に認識し、整備の必要性について課題と捉えている」との回答。

②周知活動については、先程、村尾委員からあったとおり 1 月下旬、24 時間在宅ケア研究会という所から出されている「定期巡回随時対応サービスのポイント」という PDF を居宅介護支援事業所宛てにメールにて案内している。今後も周知について関係部署と協議のうえ進めていく。

●オブザーバーからの意見

＜大学教授＞

・介護人材不足の中、このように実習生も来ていただいていてこれから頼もしいなと思っている。学生たちにも、こういった定期巡回随時対応サービスというようなサービスもあるんだよというようなことを早くから知る事で、就職のことやサービスをつないでいく事に関して理解が進めばいいと思う。学生たちがこういう会に出席できるのはとてもいい機会だと思う。こういうサービスを知っているか知らないかというのはまさに痒い所に手が届くかどうかという事でもあるので、学生を養成するところからも PR していきたいと思う。

＜定期巡回事業所＞

・事例に関して、元気になってこられて良かったと思う。職員に関しても人員確保が出来ていて、利用者が元気になる姿を見れば働き甲斐も生まれると思う。良い事例だと思う。デイサービスの送り出しのセットは人員確保が難しい部分であり送り出し前の身支度までとしている。利用者の痛みの軽減の理由に関して共有できれば尚良いかと思う。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

・次回介護医療連携推進会議予定　令和５年８月中旬

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社

事業一課　　ヘルパーステーション（巡回）　藤田